

幸せな贈り物

Q

「まず、すまないという言葉伝えます。

私をはじめ、そして最後まで愛した女性でした。生きるということが苦難の連続だったので、いつか教授になるその日に、あなたにあらゆる事を許してくださいと言いながら『今はあなたと一緒にいましょう』と言いたかったのです。その思いを成し遂げることができませんでした。もうしわけない」5月25日、クアンジュ朝鮮大学で、非正規教授(英文科)として勤めてきたソ (45)講師が、自分の家で煉炭に火をつけて、非正規教授として苦しかった生涯を終え、周囲を悲しませました。全国各大学の6万人以上の時間講師たちも、まだ一学期が終わらない状態で発生した悲劇的事件の前に、話す言葉を失っています。

故人は、これまで夫として、また、家長としての役割をつくすことができなかつたことに対し、ゆるしを請うとともに、切ない家族に対する愛を遺書に残して、再び帰らぬ遠い道に行ってしまいました。奥さんには「すまない。そして愛している。しかし、生活するという言い訳で、夫の役割をすることができなかつた。愛している、もうこれ以上、私の力ではこの現実に耐えられなかつた」と書き、息子と娘には「本当に愛しているよ。君たちにこういう姿を見せるとは、とても良い子たちだったので、感謝しながら暮らしてきたが、こういう悲劇がくるんだな。しかし、がんばってほしい」という言葉を残しました。

「『教育は百年の大計』と言われる。教授の席が1億5000万(約1,200万円)、3億ウォン(約2,300万円)だと言われています。私は2度、提案されました。およそ2年前、チョンナムの某大学『6000万ウォン(約450万円)』2ヶ月前、キョンギドの某大学

不幸にならざるをえない 根本原因が あります

『1億ウォン(約7500万円)』でした」故人は、また自分が身を置いている学科指導教授のために、これまで、なんと54個の論文を書いたという事実も打ち明けました。「それでも、(教授が)追い出そうとする」と言いながら「私はあなたの奴隷ではありません。恥ずかしいです。学者としての人生を生きようとした結果が、このありさまで、墜落した結果をもたらしました」故人は教授になれば時間講師の困難から抜け出すことができると判断して、熱心に努力したのですが、教授採用を条件に金品を要求する大学社会の現実に絶望して、また恩師に数多くの論文を献上して主従関係の侮辱を耐えたのに、戻ってきたことは背信だけであったと告白しました。1988年以後、9人の時間講師が教授任用不正と不合理な講師制度、それによる生活苦などで自殺しました。今現在「キャンパスの奴隷」と呼ばれる時間講師は、大学全体の講義の55%ほどを担当しています。同じ講義をするのにも、時間当り講義料は平均3万5千ウォン(約2千5百円)程度で専任教授賃金の10~20%のレベルであり、いくつかの大学をのぞいては、4大保険も保証されずにいます。それでも、専任教授に憎まれないために、あらゆる良くないことをしながら、侮辱され、いつ生活費が切られるかも知れない雇用不安に震えなければならないのが現実です。

はたして、私たちの人生は絶え間ない競争の中で犠牲にならなければならない、むなしい存在なのでしょうか。だれのための勉強で、だれのための知識ですか。このような不幸の中から解放される道はないのでしょうか。

A

ANSWER これに対して聖書は確実な診断と答えを語ってくれています。

すべての問題の根本原因は、私たちが神様を離れて、霊的に死んで肉体の目だけが開かれ、肉体の欲に支配され、その運命がサタンの権威の下に置かれた生まれながら御怒りを受けるべき子どもであるためだと語っています。

なぜそうなったのでしょうか。人間は本来、神様のかたちとして創造されました。本来、人間は神様の子どもであり、神様とともに永遠に万物を治めながら生きる祝福を受けました。魚が水で生きて、木は地に根をおろして生きるように、私たちは霊である神様と、なんの苦痛もなく、完全な祝福を味わいながら生きるように約束された霊的な存在でした。

ところが、人間はサタンにだまされて神様との約束を破って、神様を離れる罪を犯すようになりました。この時から人間の運命はサタンに左右されて、呪いと苦しみの中に陥るようになったのです。そうして、人間はいつも平安がなく、幸せを求めて何かに没頭しなければならず、それを得るために激しい競争をしなければなりません。それだけではなく、精神的に安らぎがなく、未来に対する不安に捕われて占いをしたり、お祓い、偶像崇拜に陥るようになりました。

いくら知識と名誉、お金が多くても満足がなく、理由なく不安で、深刻なストレスと不眠症、うつ病のような精神的な問題に捕われるようになりました。それだけではなく、肉体的な問題も現れるようになって、不治の病、悪夢、名もわからない病気に苦しめられたりもします。お酒と麻薬、快楽で解決してみようとしても、より一層むなしく、不安になり、安らぎはありません。この問題は、子孫にもそのまま伝わって、三代四代まで苦しみを受けるようになります。結局、人間は死んでも、この苦しみから抜け出すことはできず、むしろより大きい苦しみである地獄の火の池の中に落ちるようになります。人間はこの問題を抜け出そうとあらゆる努力をしてみますが、いくら立派な先生や哲学、宗教、倫理、道徳でも解決できないのです。

それで神様は大きい愛をあたえてくださって、人間が神様に会える道を開いてくださいました。神様が人間となって、この世に来られ、サタンのしわざ

を打ちこわして、十字架で血を流して死に、復活されることによって、人間のすべての罪の問題を解決して、神様に会う道を開いてくださいました。その方がまさにイエス・キリストです。

この事実を心で信じて、口で告白すれば、私たちは救われて神様の子どもになります。イエス様を受け入れるとき、聖霊で私たちの中に臨んで、永遠に同行してくださり、すべての問題から解放されて呪いと運命から抜け出し、真の平安と安らぎを味わうようになるだけでなく、天国の国籍を持つようになります。神様はこのうれしい知らせを地の果てまで伝える証人になるように、聖霊の力を与えてくださいました。神様の子どもに、驚くべき力を与えてくださり、私たちが世界福音化の契約を握って祈るときに答えてくださり、天の御使いと天の軍勢を動かして、サタンの勢力を縛るだけでなく、ついに福音で世界を征服する権威をくださいました。あなたも今、神様の子どもになって、すべての不幸の根本原因から完全に解放してもらうことができます。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。神様を離れてサタンの支配の下で縛られ、奴隷となって生きていました。しかし、今、この時間、イエス・キリストを私の救い主、私の主人として受け入れます。

イエス・キリストは神様に会う唯一の道で、サタンの権威を打ち砕かれて、すべての罪とのろいと災いから私を解放してくださるキリストであることを信じます。今、私の中に入ってきてくださって、私の主人となってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことなく、死からいのちに移っているのです。」

(ヨハネの福音書 5:24)

理由を持って
出発した深い泉

理由ある
重職者

2008年1月18日、明らかな重職者時代の理由を持って深い泉1号が発行された日です。

そこにこういう記録が残っていました。

「生きている者の中にも死者がいて、死者の中にも生きている者がいる」生きているのですが死んでいる生活を送る者がいて、死んだのですが、生かす生活を送る人がいます。私たちはこの時代に何の希望もなく暗やみの現場で苦しんでいる数多くのたましいに向かって灯を照らそうとしています。必要ない失敗を繰り返さないで、世の中を生かす私たちの次世代のために、灯を照らそうとしています。それで、神様の情念を抱いて、隅々に福音の光、いのちの光を照らす重職者時代のとびらを開けます。重職者を通して教会が生かされ、地域が生かされ、次世代が生かされ、経済が生かされ、文化が生かされ、未来が生かされて、世界が生かされるようになります。神様がこの時代に重職者にくださった呼び名「深い泉」。これが重職者の手紙、深い泉が持った理由でした。

重職者の
理由

今日、私たちがもう一度確認しなければならない重職者の理由はこうです。なぜ神様が多くの重職者を立てられたのでしょうか。先に知らなければならないことは「神様がお望みの者を呼ばれた」という事実です。それゆえ、呼ばれた神様のみことばをのがしてはいけません。伝道者の集いに宣言されるメッセージの中には、神様の計画が確かに入っているのです。そのみことばをのがしてはならないのです。各自の状況に合う訓練の時刻表をのがさず、一つずつ自分のものにしなければなりません。そして、礼拝をささげる教会の講壇のみことばをのがしてはいけません。この三つを持って現場に行ってみれば、現場に合うメッセージが見つかるようになっていきます。そして、私に与えられる今日のみことばを握って祈れば良いのです。そうすれば、多くの人を生かす前に、まず重職者が生き返るようになります。神様のみことばを握るのは、今、生存している理由になります。そして、ひょっとして私たちに問題と葛藤がくる時にも、必ず神様のみことばを握らなければなりません。神様の生きているメッセージが伝えられれば、信徒は生き返ります。すべての現場にいる未信者にも、この祝福が必要です。私たちの次世代にも、必ず神様のみことばを今日のみことばとして握らなければなりません。神様のみことばには、創造の力があります。それで、このみことばを受けた人はみな生き返るようになっていきます。神様の子どもには、悪霊を追い出す権威もいただきました。イエス・キリストの御名の権威で未信者状態に陥った人々を救い出すことができます。暗やみに捕われてしまった文化を生かせます。私たちには力はありませんが、勝てる権威を神様がくださいました。重職者は行く所ごとに神様が働かれるので、暗やみが崩れて、人が生き返るようになる、現場の生きた証人なのです。

神様の子どもたちの五つの確信

- 1 救いの確信：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)
- 2 祈り答えの確信：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 導きの確信：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 救いの確信：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 勝利の確信：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)

神様の子どもたちの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

厄日 をさける

私たちは、姑が必ず厄日をさけて引越ししてしてしたのですが、引っ越し代も高く、ある辺りな場所へ、オンドルの床から持って行くことになりました。その日に雨が降って、翌日に延期しようとしたところ、ものすごく怒られて…引っ越しの業者のおじさんも泣きながら、仕方なく引越ししたのですが、必ず厄日でない日が良いのではないようですね。引越しした日、引っ越し先でオンドルの床が乾かず、ポンドの臭いで、その日、新郎と町の旅館で泊まりました-Aさん

私たちも昨年12月19日土曜日に引越しすることにしたのですが、厄日が15日だということで、あたふたと日を決めて引越ししました。どうせなら、厄日はさけたほうが良いという話を聞いて、そのようにしたのです Bさん

インターネットで見た二人の文章ですが、たいいてい年配の人からの忠告を聞いている若者たちなのだが、私たちに重要な事実を知らせている。なぜ、人々は厄日でない日を探すのだろうか。引っ越しの日や、引っ越し方角を決めるとき、まわりの家族や年配の人々が知らせる単語が、まさに厄日(吉日)だ。本来「厄(韓国語では損)」という言葉は、窮乏した時代に負担になったお客さんに対して悩んだところから由来する言葉だが、これが「恐ろしい」という意味で使われて、遠ざけたら良いという意味で使われるお客さんという意味だ。確かに定義すれば「厄(損)」とは、特定の日に東西南北の四方から人の仕事を妨害する悪霊のことを言う。したがって、厄がない日だというのは、その悪霊がいないから、災いや損失がないことで、それで、その日に引っ越ししたり、開業したり、インテリアで釘を打ち込んだりするのだ。

厄日には悪霊が活動するので、この日に引越しすれば、悪霊が害を与えて災いが起きるためだ。韓国で損のある日(厄日)は、陰暦日を基準にして、1.2.11.12.21.22日には東の方に、3.4.13.14.23.24日には南の方に、5.6.15.16.25.26日には西の方に、7.8.17.18.27.28日には北の方に損があると言われている。ただし陰暦である9.10.19.20.29.30日になれば、損は空に昇って、地上ではどの方向に引越し



イラスト_ユン・スルギ

しても邪魔する悪霊がない、損がない日だと言われている。そうしたら、損がない日は引越費用が高いので、それで便利な方法として、御飯釜だけ持ってあらかじめ行って一晩泊まり、後ほど引越することも起きている。結局、人々が習慣に従って、風習と言うのだが、何かの霊的な力に自分たちの生活が調整されているのだ。これがまさに霊的問題に人々が捕えられているということで、神様を離れた人生が運勢や運命に縛られているのを見せているのだ。

悪霊は人間を助ける存在ではない。人間をさまざまな方法、すなわち時間、場所、方角で縛って、人間の自由を制限して、その限界を越えれば病気と事故で苦痛を与えるのだ。空中の権威を握っているサタンに会おうと、悪霊が空に行く日を損のない日だと発見した人生の苦しみは、どれほど多くの試行錯誤を体験したのだろうか。サタンとその手下の悪霊が世の中での時がいくらかも残っていないことを知って、人間世界に風習という名前でむやみに混乱を与えているのだ。福音を持った人は、いつでも引っ越しして、いつでも自由に良い日を結婚の日に決められる。厄がない日を探す人々は、複雑な結婚式場と値段をより払う引っ越しと、恐ろしい一日を過ごすことに心をより多く向けている。そういう運命から抜け出る簡単な道が、まさにイエス・キリストを通した福音だ。神様は、人間に幸せな日々をくださった。どの一日も、どの瞬間も人間が自由を拘束されるようにはされない。悪霊に捕えられているので、厄日に縛られるが、救われれば、すべての日々がまさに吉日なのだ。その日は、イエスをキリストとして受け入れた人にだけ与えられる特権だ。それなら、まさに今、吉日を自分のものにしてください。簡単に！

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ